

「中山間地域における住民主体の取り組みの背景と課題」

第10回ITS地域交流会in山陰地方2016

公立鳥取環境大学

倉持裕彌

A地区の地域づくり

イベントに取り組む背景と課題

A地区概要

- 人口91人 高齢化率50.5% (平成28年)
- 買い物は不便
 - 移動販売あり
- サラリーマン世帯 (兼業農家)が多い。
- 昔の主要産業は養蚕・和牛
 - ・備中葉 (葉タバコ)
 - 現在は水稻 (米)

集落の変化

(ゼミ生による集落住民に対する聞き取り調査より)

| | 以 前 | 現 在 |
|-----------|------------------------------|---|
| イベント | イベント回数は少なく、農業系の活動が主であった | 平成 ²⁷ 年 ¹⁹ 項目の活動を実施 地元資源の活用、軽トラ市の実施等 |
| コミュニケーション | 同じ集落内で普段生活をしていても関わりのない人が多かった | 活動を行う度に参加する人数が増えていき、繋がりが広がった |
| 議論の機会 | 集落内で集まって課題や集落の事を議論する場が無かった | 新しい組織が成立 月一回に打ち合わせ |
| 参加者 | 高齢者や男性が中心となって動いていた | 若者、大学生、行政、特に女性の参加が多くなる |
| 外部 | 同じ地区での活動が主であった為、外部との交流は薄かった | 他集落・行政・学生との連携 外部の人が多くイベントに参加 |

地域づくりに取り組む動機

- 集落を成り立たせてきた仕組みの維持
 - 高齢化、人口減少 → 集落運営費の減収
 - 水路、集落内活動、伝統行事の維持が難しくなる。



話題性のある活動を通じて、元農地等の遊休地の賃貸など、収益性のある事業の誘致を模索

- 元気がない
 - 生きているうちは、元気な集落であってほしい
 - 10年、20年と活動を続けられるとは思っていない

経済的な動機がある。

ただし...

水路を維持したとしても「生業としての農業」はすでにされていない。

最終の選択肢。農業をやめる。水路を維持しなくてすむ。

集落全体の意思決定が必要。

難しい。

水路

- 全長 約3.5km
- 整備時期 明治3年頃
 - 当時は土水路
- 水路清掃
 - 年5回程度
 - 25人／1回
 - 落ち葉・石の撤去、草刈
 - 30万程度／年
 - 今後、U字溝のふた(コンクリート製)などの整備事業予定

地域づくりの課題

- 有効策は依然見つからない。
 - 水路の維持管理費用等
- 一度イベントを仕掛けると、後に戻れない。
 - 集客が減るのは「活性化の失敗」
- 「動く集落」は自治体の格好の的
- 住民の負担が増すばかり(摩擦や軋轢の可能性)
- 結局イベントをして少し集落が元気になった、で終わるのか。

コミュニケーションは増えてきたので、「集落全体の意思決定」の可能性も若干増えた。

これまであまり検討されなかった交通、ICT、医療・福祉などの視点から、住民負担を少なく集落を守る議論を期待。

学生が中山間地域に住む際に 重視すること

提案だけに終わる空き家のシェアハウス活用

中山間地域の空き家活用提案

- 空き家活用案としてのシェアハウス
 - 米子市の中心市街地で実施
 - 鳥取市でも複数物件が誕生
- 大学に寄せられる期待
 - 「シェアハウスをどの程度の学生が利用してくれるだろうか」
 - 八頭町(集落)、岩美町(法人)から打診
 - 県の若手プロジェクトチームも提案
 - 講義を活用してニーズ調査を実施
- 調査(2015年7月実施)
 - 質問紙調査 全6問
 - 対象者 115名(2年生 男性65人、女性48人、性別無回答2人)

シェアハウス事業案【概要】

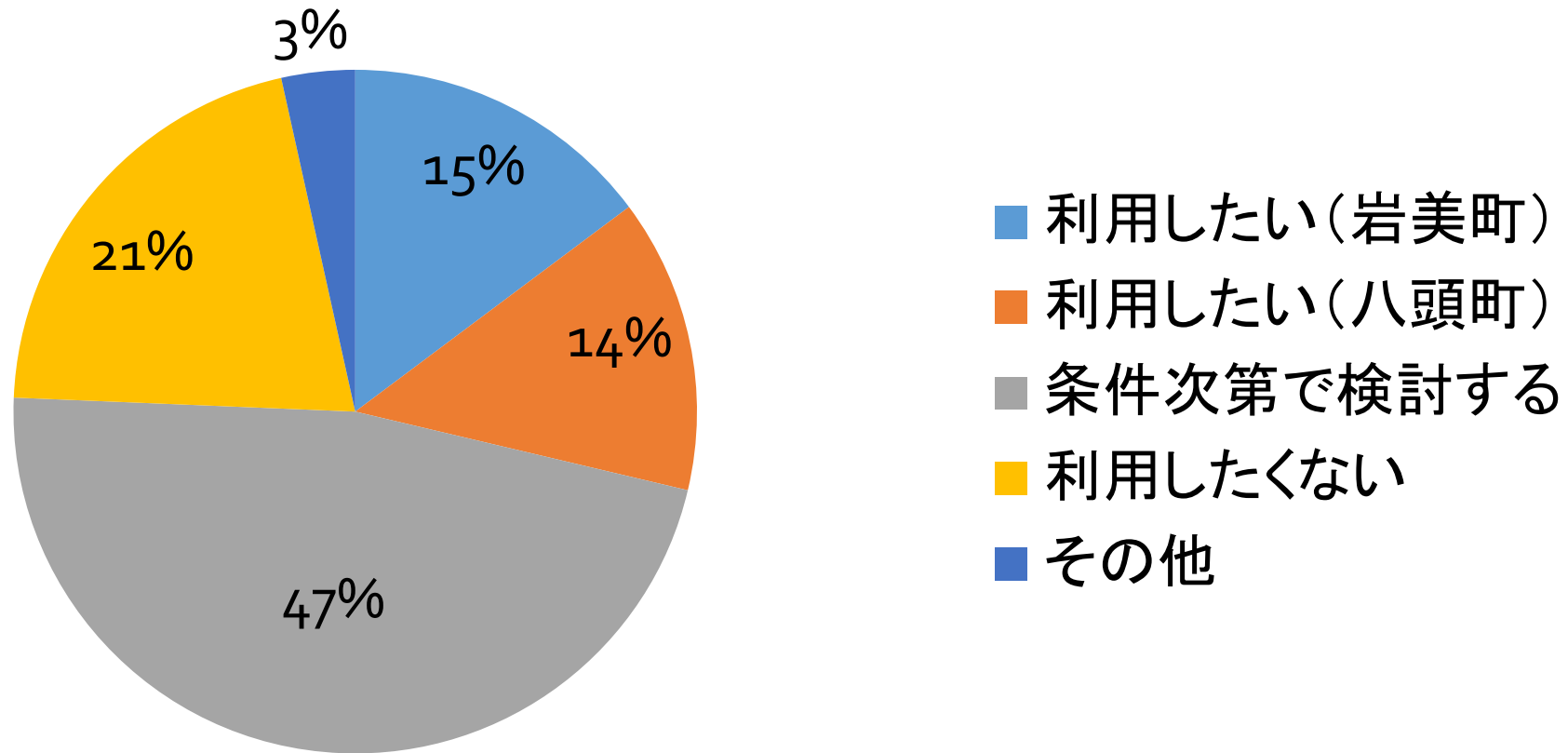
- 地域の空き家を改築し、学生等のシェアハウスとして安価で貸し出す。
- 地域の活性化のため、地域内の活動を担ったり地域の方々と交流したりすることを条件とする。
- 同時に周辺の公民館等の空き施設を利用して、シェアハウス利用者向けの食堂(学生寮のように食事つき)と地域の交流の拠点を整備し、利用者と地域住民との交流の基点とする。

<前提条件(仮)>

- 家賃 1万5千円～2万円程度 敷金・礼金なし
- 設備
 - 家具付き、キッチン・風呂・トイレ・冷蔵庫・洗濯機共用
- 交通(目安)
 - A地域(岩美町浦富辺り)/ 岩美駅まで徒歩30分・バスで10分、環境大学まで自動車で40分
 - B地域(八頭町私都辺り)/ 東郡家駅まで自動車で10分、環境大学までバス・自動車15分
- 入居期間 1ヶ月から (最短1ヶ月、最長2年)
- 地域活動
 - 毎月1回・1時間～半日程度の地域活動
 - シェアハウス(3～4人、同性のみ)/1集落につき15人程度を想定

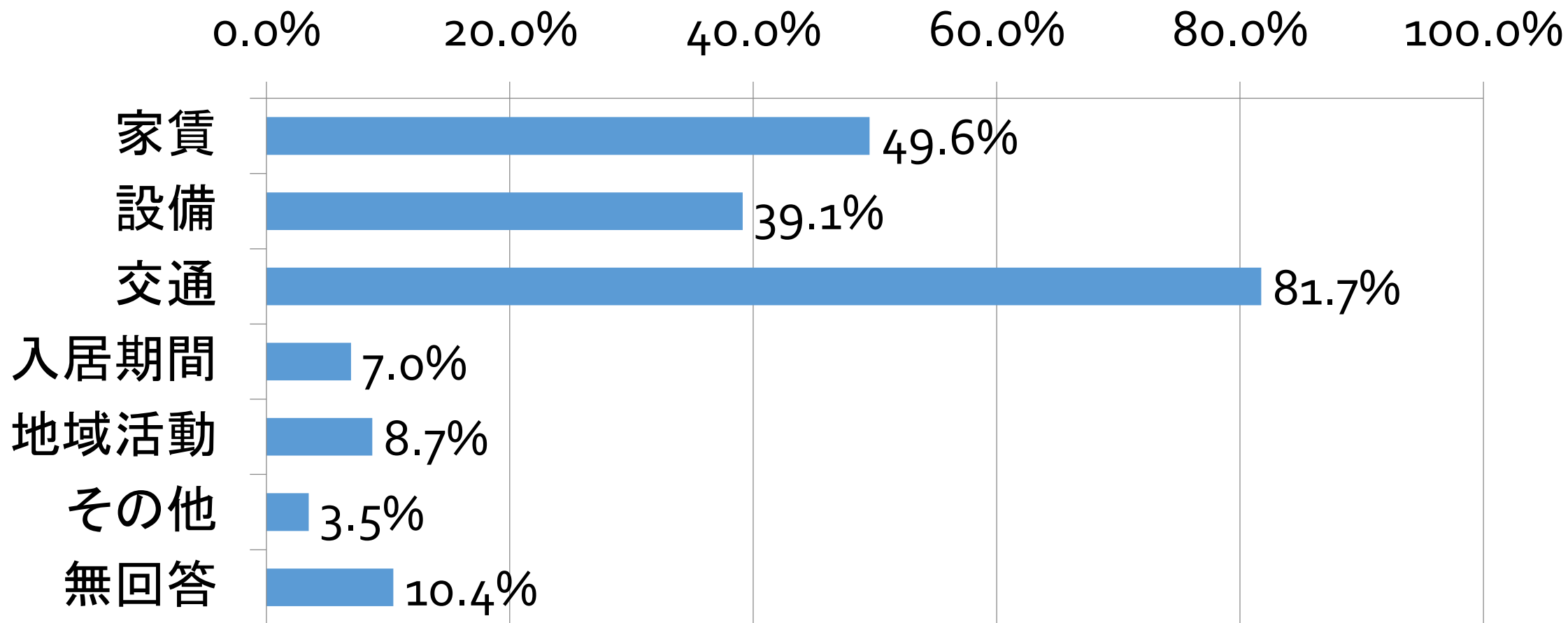
調査結果

問1 シェアハウスの利用意向



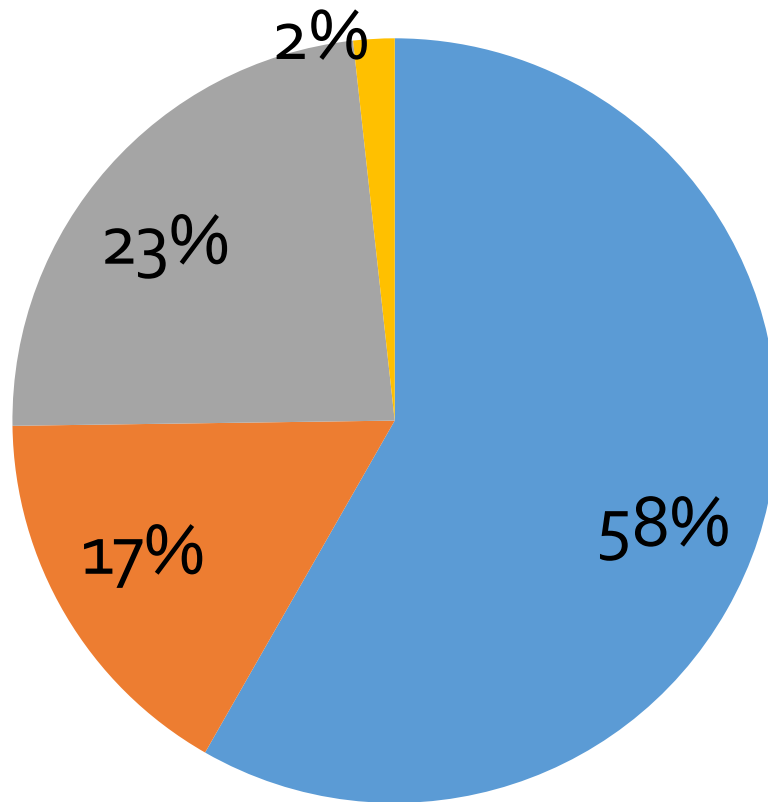
調査結果

問2 重視する項目



調査結果

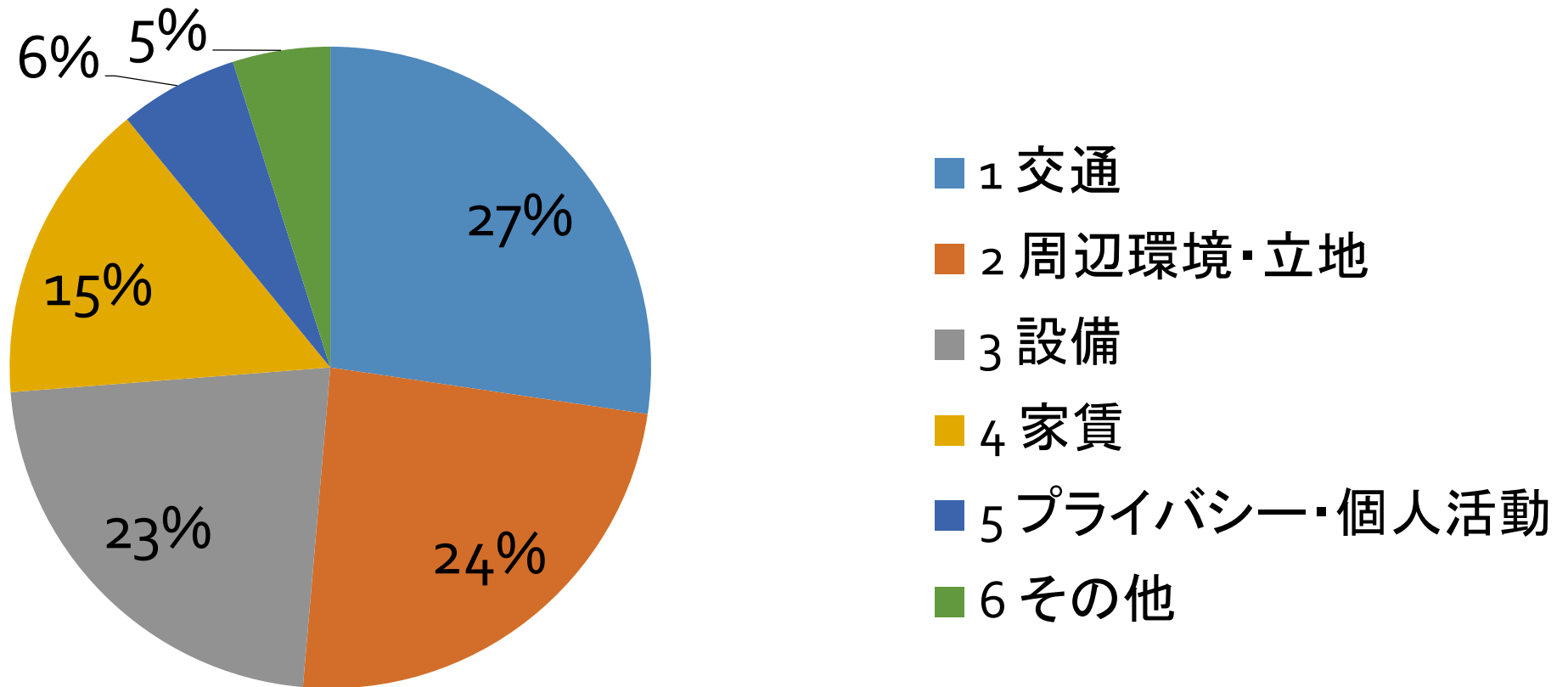
問3(2) 交通面で必要な支援



- スクールバスの運行
- 公共交通機関の補助
- 自家用車の貸与
- 支援は必要ない

調査結果

問4 住む条件を決める際に重視すること(自由記載)



調査結果

問5 事業案に対する意見・要望

・交通

- ・ 大学から距離も有り、学業・サークル活動・食事会等色々あるので、夜遅く帰る場合にバス以外にも交通手段が必要。
- ・ シェアカー等、車の貸出しは非常に助かる。

・家賃

- ・ 安すぎるのも心配。(設備に問題がないか等)

・地域活動

- ・ 地域イベントの参画ができるのはとても魅力的。

・その他

- ・ 商業施設が近くに不可欠。

雑感

シェアハウスの魅力は家賃の相場が高い場所で、安く住めること。中山間地域はもともと家賃相場がないような場所なので、交通等を整備しても実際には住まない可能性が高い。